

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム
派遣先機関等利用マニュアル

2011 年 2 月 2 日

派遣者氏名（専門分野）	張 紋絹 （ 日 本 学 ）
-------------	----------------

派遣期間	2011 年 1 月 14 日 ～ 2011 年 1 月 29 日
------	-----------------------------------

派遣研究機関

国	都市	訪問機関
台湾	台北市	玉蘭荘/台湾日本人会/日台交流協会（閲覧室）/ 台湾大学台湾研究貴重文書史料室など

利用マニュアル（利用申請に必要な書類、手続き、リサーチ方法を記入）

派遣者は今回の派遣の前に、すでに3回に分けて合計2ヶ月ほど玉蘭荘で調査研究を行ってきたため、今回は、主にさらなる深いインタビュー調査と関連資（史）料の収集・分析を目標とした。それを通してこれまでの調査結果に残されている問題点を解明することを目的とした。そこで、派遣期間中は関連人物の訪問と玉蘭荘をはじめ在台日本人と関連のある主な機関の訪問、そして主に台湾大学の台湾研究貴重文書史料室での文献調査を実施した。

まず、玉蘭荘について説明したい。玉蘭荘は在台日本人と台湾人の支援のもとに活動している高齢な在台日本婦人と日本語世代の台湾人が通うデイケアセンターで、台湾において日本語で活動している多くのコミュニティとの交流もある場所であり、玉蘭荘を通して様々なコミュニティとの接触をすることができる。なお、これまでは多くの日本からの研究者を寛大に受け入れてきたが、その後のフォローが良くないケースが多かったため（たとえば許可なしでインタビューの内容を実名で公開してしまったことなど）、現在、研究のための調査や情報を得るために来た研究者の姿勢が厳しく問われていると感じる。派遣者も最初の時に、まず活動日ではない日に総幹事さんとの面談で自分の研究について詳細に述べて、玉蘭荘や玉蘭荘を通して何を研究したいのかを総幹事さんに了承を得てから、玉蘭荘での研究調査を始めたのである。ただ、対象者らとの関係をどう築くのかもまた難関であった。調査者ではなく、ボランティアである、というような姿勢で、活動日において参与観察と仕事の合間にインタビュー調査をするというよう丁寧な調査の形が一番望ましいと思われる。活動日に対象者らとの信頼関係を築くことによって、また彼（女）らの自宅へ訪問してさらなる深いインタビュー調査ができるだろう。そして、玉蘭荘や対象者の自宅を訪問する時には、日本のお土産を持っていくことが望ましいし、礼儀ともいえるので、それを忘れずにすれば調査ももっとスムーズに進められると思われる。次に、台湾日本人会について、基本的にはだれでも訪ねることができるが、事前に丁寧な問い合わせをしてアポイントメントをとっておいたほうが良い。資料の閲覧室は会議のない時間帯ならいつでも利用できる。閲覧室では、在台日本人が関心を持っている書籍が多くある。また、在台日本人の各コミュニティが発行している会誌なども所蔵している。これらの会誌は非会員には基本的には公開していないため、会員ではないが関連研究をしたい時に、この閲覧室は貴重な場所といえよう。そして、日台交流協会の閲覧室も在台日本人が関心を持っている資料と関連する会誌を多く所蔵している場所である。誰でも名前などを名簿にサインすれば入れる。ただ、コピー機がいないため、コピーしたい場合、身分証明書などを預けて一時的に貸し出すしかできない。もし長期的に貸し出ししたい場合、利用書を申請する必要がある（添付する用紙をご参照ください）。最後に、台湾大学の台湾研究関連の貴重文書の史料室に関して、基本的には貸出できない。閲覧する時に申請書を書く必要がある。閲覧区で閲覧してから、もしコピーが必要な場合、図書館側の専門な人に依頼するしかない。